

スマートテレビ時代における字幕等の在り方に関する検討会 取りまとめ（案）イメージ

目次

はじめに

1. 字幕放送の現状等
2. 「字幕」をとりまく環境の変化
3. 検討会における検討事項

第1章 多言語字幕WGとりまとめ

1. 多言語字幕の意義等
2. 多言語字幕サービス実現に当たっての基本的な視点
3. 多言語字幕サービス実現のための課題等
 - (1) 多言語字幕の作成方法
 - (2) 多言語字幕サービス実現のための課題
4. 提言
 - (1) 実現するサービス
 - (2) 多言語翻訳システムの精度向上のための取組の推進
 - (3) 実証実験
 - (4) ビジネス化、その他サービスの実現、普及に向けた措置
 - (5) 多言語字幕サービスの実現に向けた推進体制
 - (6) 今後のスケジュール（サービス実現に向けた時間軸）等

 資料4-1

第2章 CM字幕WGとりまとめ

1. CM字幕の必要性・意義等

- (1) 字幕番組への取組
- (2) CM字幕の必要性・意義

2. CM字幕の現状等

- (1) CM字幕の現状
- (2) 関係3団体における取組状況
- (3) 諸外国における取組状況

3. CM字幕普及に向けた課題

- (1) 技術面、運用面の課題
- (2) 普及、周知等に係る課題

4. CM字幕の普及に向けた提言

- (1) トライアルの拡大等や検証結果の公表
- (2) 放送局における設備、運用面の整備
- (3) CM字幕に係る取引慣行等の確立
- (4) CM字幕の普及に向けた推進体制、ロードマップ等

おわりに

別添1 開催要綱

別添2 構成員

別添3 開催状況

参考資料集

はじめに

1. 字幕放送の現状等

- (1) テレビジョン放送は国民生活に密着した情報提供手段として必要不可欠なものであることから、視覚障害者や聴覚障害者に対しても健常者と同等の情報を提供することが求められてきた。こうした中、テレビジョン放送の字幕放送は、昭和58年からNHKが取組を開始し、テレビジョン放送のデジタル化の際にデータ放送の標準規格として実装され、近年は字幕が付与された放送番組が増加している。
- (2) 字幕放送は、放送番組のアクセシビリティを確保する観点から聴覚障害者のテレビ視聴を支援することが主眼であるが、近年は移動中のワンセグ視聴や音声聞きづらい環境下において等、健常者のテレビ視聴にとっても有用なものとして利用機会が増加している。
- (3) 生放送の番組に対する字幕付与等、字幕放送の更なる普及に向けて解決すべき課題は残されているが、デジタル放送への移行が完了したことにより、「字幕」もその発展に向けた新たな取組が求められる段階にある。

2. 「字幕」をとりまく環境の変化

(1) 我が国社会のグローバル化

「ビジット・ジャパン」や東京五輪招致等により、今後も訪日外国人は増加の一途である。また、外国人労働者については、安心・安全な環境の下で日本に親しんでもらうためにも、放送番組と連動する多言語のサービスの提供が「時代の要請」になっている。

(2) 放送と通信の連携の進展

テレビジョン放送のデジタル化への移行が完了し、インターネットをはじめとする通信サービスと連携した放送サービスの導入が進展している。

(3) ユニバーサルアクセスの確保

字幕放送や解説放送の提供は放送法の規定により放送事業者に努力義務が課せられているところであるが、「(新)障害者基本計画」(平成25年9月25日閣議決定)や平成25年の地上放送事業者の再免許において、一般の放送番組に加え、「CMに対する字幕付与」の進展に向けた取組の強化が求められている。

高齢化社会の進展や訪日外国人の増加に伴い、放送番組に対するユニバーサルアクセスの確保・向上が社会的に要請されている。

3. 検討会における検討事項

こうした環境の変化を踏まえ、本検討会においては、「多言語字幕WG」、「CM字幕WG」の2つのWGを設け、スマートテレビを活用した多言語字幕やCM字幕の本格的な普及に向けて検討を実施した。